

思索と反省

松本 耿平

しばらくペンを執ることを怠つてゐるうち
 に四五ヶ月の遠しい時間が過ぎた。その
 して、そのあひだのいろいろな疲労が今漸く
 私は精神に少しづつでもつめたい、然もほろ
 いな加へて微光が心の中に流れ来たとす
 感をおぼゆるのである。私はまつたく二數

2 精神